

事務事業評価表

○基礎情報

課名		教育センター	作成責任者	常勤職員		常勤職員以外			総従事者	時間外勤務時間	
施策目標	9	子どもの健やかな育ちを促す教育を研究し支援する	日高恭子	管理職	左記以外	再任用短時間	会計年度任用職員	派遣職員	総人工	総時間	一人あたり月平均
				3人	4人	0人	52人	0人	26.94人	1,441時間	30.0時間

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の現状値	目標値(R2年度)	実績値		
			H30年度	R元年度	R2年度
教育関係職員の研修等の参加者数	2,199人	2,100人	1,866人	1,805人	1,464人
青少年教育相談室の相談件数	2,686件	2,700件	2,805件	2,141件	2064件
市民・保護者の講座等の参加者数	613人	650人	492人	351人	0人

(施策のねらい)

1	子どもの成長発達についての調査・研究
2	教育課題についての調査・研究
3	教職員の研修機会の提供と学校の支援
4	質の高い授業づくりの支援
5	相談・支援体制の充実
6	0

(評価の見方) S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める
C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない
Z 未着手事業(計画していたが未実施に終わった) 実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

2 政策的事業の実績(令和2年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)													Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	R元予算(円) R元決算(円)	R2予算(円) R2決算(円)	何・誰に対して (対象)	どう働きかけた結果 (手段・方法)	どうなったか(生ま れた成果・効果)	事務事業の指標	R2目標値	R2実績値	評価	取組時間	事務改善	休・廃止
1	「子どもの教育」講座・講演事業	1	0.59	一般	489,000 442,200	203,000 202,642	子どもの成長発達に関する基礎研究を踏まえ、教育への意識を高めるため計画した市民・関係職員等対象の教育講演会等は中止となったが、研究用図書や講座実施のための備品を準備した。	講座講演参加者数	740人	0人	C	減少				
2	教育情報ホームページ等広報事業	1	0.31	一般	0 0	0 0	市民に対して、教育センターが推進する事業に関する情報を、ホームページや広報誌・チラシを通して提供した。それにより、講座・講演等の開催、教育相談事業等の情報を、関係機関や教育に関心を持つ市民に周知できた。	教育センターだよりの発行数 教育センターホームページの更新回数	2回 16回	2回 22回	S	変動なし				
3	図書刊行事業	4	0.41	一般	4,291,000 3,874,833	4,285,000 3,299,282	茅ヶ崎市に在住・在学している小・中学生に、茅ヶ崎市について学ぶ地域教材を作成・提供することで、子ども一人一人に地域への興味・関心が醸成されることに寄与した。	小学校児童配付部数 中学校生徒配付部数	2,700部 2,500部	2,579部 2,602部	S	変動なし	●			
4	創意工夫研究作品展事業	4	0.43	一般	223,000 213,938	122,000 106,425	茅ヶ崎市に在住・在学している小・中学生を対象に創意工夫・研究作品展をホームページ上で開催し、創造性や研究心を培う機会を提供することで、児童・生徒の主体的な活動と学びを促すことができた。	創意工夫研究作品展来館者	2,800人	HPアクセス数3,062件 (出品者公開ページ1,651件、創意工夫828件、研究583件)	A	変動なし				

5	あすなろ教室(適応指導教室)事業	5	2.07	一般	8,563,000 8,009,663	8,896,000 8,789,304	茅ヶ崎市内在住で不登校状態の小・中学生を対象に、登校復帰と社会的自立を促すプログラムとその実践の場を提供した。通室生が生活リズムを取り戻し、人間関係の改善に向き合い、登校への意志につながった。	スーパーバイザーによる研修回数	医療3回 心理9回	医療3回 心理9回	S	変動なし		
6	スクールカウンセラー活用事業	5	0.13	一般	65,000 64,992	65,000 58,984	市内全小・中学校に配備しているスクールカウンセラーの相談環境の整備を行った。児童・生徒、保護者、教職員等に対する相談対応を支障なく円滑に行うことができた。	カウンセリングルームの整備対象校数	13校	13校	S	変動なし		
7	心の教育相談事業	5	10.81	一般	26,616,000 26,303,459	27,475,000 27,176,223	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新しい生活様式が導入されたが、市立全小・中学校の児童・生徒を対象に心の教育相談員を配置したことにより多くの児童・生徒が気持ちを整え、生活を送ることができた。	心の教育相談員の勤務日数	年間160日	年間160日	S	変動なし		
8	青少年教育相談事業	5	3.56	一般	14,136,000 13,322,528	14,307,000 11,459,485	新しい生活様式が導入されたが、児童・生徒や保護者、教職員に対し、電話相談や面接相談等を実施することにより、教育上直面する問題及び不安や悩みに寄り添い、青少年の健全な発達を支援することができた。	相談体制の維持	青少年教育相談員10人	青少年教育相談員10人	S	変動なし		
合計					R2予算(円) R2決算(円)	55,353,000 51,092,345								

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課はいは一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)	
施策目標の目標値を実績値が下回っており、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、予定していた事業を一部変更及び中止するなどした影響と考えている。その中においても、子どもの健やかな育ちを促す教育を研究し支援するため実施した事業もある。 No.8青少年教育相談室の相談件数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため面接相談を一時中止したものの、青少年教育相談員を10人配置、相談件数が2,064件にのぼり、青少年の健全な発達の支援に寄与できたものとする。 No.4創意工夫研究作品展事業は、各学校から選ばれた作品がホームページで閲覧できるように配信した。ホームページを活用することで市民及び児童・生徒の学びの意欲の向上が図られたものと考えている。 今後に向けて、令和3年度から市内小・中学校においてもGIGAスクール構想による学校でのタブレット端末を活用した授業が行われるようになることから、業務軽減を念頭に置きながらホームページを活用する方向で周知や配信を工夫していく必要がある。こうした観点から、No.2教育情報ホームページ等広報事業についても、さらなる活用に向けて業務軽減と利用者の利便性を両立するための工夫を図る必要がある。 No.1については、今後に向けて講座等の実施数の見直しを行っていることから、業務改善も視野に入れながら、それぞれの講座の位置づけや意味づけ、効果等を見極めながら、再構築を推進していく。 No.5～8については、「相談支援体制の充実を図るための事業」として今後も継続していく。 時間外勤務については、総時間で1,441時間、一人あたりの月平均に換算すると30.0時間である。令和元年度との比較では、総時間で248時間減り、一人あたりの月平均で1.8時間増えている。これは、令和元年度に比べて、新型コロナウイルス感染拡大防止による講座や作品展、研修等の実施方法の変更及び中止に係る事務作業の増加が要因として考えられる。全体としては安定した中で事業運営の改善に努めており、今後も業務の検討や取組の工夫を重ねることで、時間外勤務の削減に努めていく。	

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は-)	事務改善の内容
3	図書刊行事業	冊子としての発行は「質の高い授業づくりの支援」として十分成果を挙げたが、今後はGIGAスクール構想による学校でのタブレット端末を活用した授業形態に移行していくことから、業務軽減を念頭に置きながら、地域教材のデータ化を目指し、教員参加の編集委員会を立ち上げ、令和4年度から授業で活用できるようデータ編集作業を行っている。

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は-)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
-	-	現在実施している事業はいずれも子どもの健やかな育ちを促す教育を研究し支援するために、必要な事業であると考えため。今後も改善の視点を持ちつつ、合理的な手法を検討する。